

横浜寿町の社会史

炭谷氏 「課題解決の道筋示す」

関東・甲信越 静岡

日雇い労働者や簡易宿泊所の街、横浜市中区、寿地区の歴史をまとめた『横浜寿町〜地域活動の社会史』（上下巻、社会評論社。各2600円＋税）が発行された。



加藤さん



77年の取り組みを上、下巻の2冊にまとめた

歴史研究会。研究会代表で、横浜市が1965年に開設した相談所「寿生活館」の職員だった加藤彰彦（81）による。日雇い労働者の街は単身男性が住民のほとんどで、誰もが暮らす例はあまりないという。

理事長は「日本社会の底辺を抱えてきた課題を77年間の福社をめぐり、街の変遷や取り組みを記録した。推薦文で、炭谷茂・ソーシヤルファーム・ジャパニアン・研究者ら18人による寿

史は「日本社会の底辺を抱えてきた課題を77年間の福社をめぐり、街の変遷や取り組みを記録した。推薦文で、炭谷茂・ソーシヤルファーム・ジャパニアン・研究者ら18人による寿

下巻はバブル経済の崩壊による日雇い労働市場の衰退や街の変貌を評述。寿地区の高齢化率が89年からの約30年間で7倍、中学生以下の子どもが8分の1になったことに触れ、「日本全体の社会問題を先取りした地域」とした。

加藤さんは本紙の取材に「日本のどの地域でも人と人のつながりをつくること、地域全体で子育てに関わる必要だ。そのためには行政と住民をつなぐ中間的存在が重要になる」とし、寿地区の経過が他の地域の参考になるとみている。

出版記念集会の詳細など、問い合わせは同研究会事務局の横浜支部（045・3233・9019）へ。（福田敏克）

全社協が緊急支援

ジャワ島地震で32万円

昨秋インドネシア・ジャワ島で発生した地震を受け、全国社会福祉協議会は12月22日、被災地で活動するサウダラ・セジワ財団に緊急支援を行ったと発表された。公的な支援が届かない被災者の衛生用品などの費用として、総額32万円を送ったという。

2022年11月21日にインドネシアのジャワ西部で発生したマグニチュード7.6の地震では、死者0人、避難者約1000人以上に上った。

「包括的支援体制」学ば

2月末まで 社大が研修動画

日本社会事業大（横山彰学長）は12月25日、22年9月から開催した「包括的支援体制」に関する厚生労働省委託研修の動画配信を始めた。主に地方自治体職員を対象に開いたところ、好評だったため、オンデマンド研修として再構成した。なった。

研修は1コマ60〜90分、計22コマ。厚生省が関連制法に取り組みするような環境を説明するほか、ことも

被災地では、国際交流・土の研修に参加し、ンさんの所属グループが、障害者

農福連携のフェスタ

上野公園で11団体が参加

関東・甲信越 静岡

一般社団法人ぶどうの木（和田高代表理事）主催の「ノウフクフェスタ」が14、15日に東京都台東区の上野公園



種まきの「ノウフク体験」をする男の子（中央）

噴水前広場で開かれた。障害者らが農業で活躍する農福連携の取り組みを知ってもらい、地域を巻き込んで共生社会づくりを広げていくことが目的。昨年を大きく上回る約2

万4000人が来場した。会場では11の農福連携事業所などが菜花、リンゴなどの農作物や、ジャム、アップルパイなどの加工品を販売。屋台では障害者ら

が栽培したニンジン、キャベツなどを使ったメニューが提供され、飲食スペースもあることで集客につながっていた。

種まき、収穫、出荷の「ノウフク体験」ができるブースでは、障害者が作業しやすいように考案された治具（道具）を紹介。例えば赤いシールを貼ったコップは、収穫時にトマトの色と比べること

で収穫の判断がしやすい、トマトをハサミで切つてそのままコップに入れられるため、トマトに触らずにつぶすこともなく収穫できる。また、トークセッションには、重度障害の

弟がいる大学1年の上野夏音さんが登壇。障害について知らないために周囲に怖がられていると感じることもあった。小学校で特別支援学校などの交流があれば『そういう人もいよう』と思える大人に育つのではないかと。障害者を温かく見守れる社会になってほしい』と語った。

特養7割に派遣職員

東社協調査 介護士、看護師を雇用

関東・甲信越 静岡

都内の特別養護老人ホームの69%が派遣の介護、看護職員を雇用

厚生会の保育教諭でつくる「チームカンボジア」リーダーの河合育世さん（子育てセンターみゅうのおか園長）は「他国に貢献できるのは現場職員の誇りになり、日々の実践を改めて振り返るきっかけにもなっている。

「募集してもい（必要を人々目的）の72会社を利用すスクは「直接べてコストがる」が79%でこれらの結

日本の幼児教育学が

カンボジア行政官ら視察

関東・甲信越 静岡

カンボジアで幼児教育を担当する官僚や現場の教員ら9人が12月9〜16日、浜松市の社会福祉法人天竜厚生会

天竜厚生会（浜松市）



認定子ども園を視察した=天竜厚生会提供

（山本たつ子理事長）で研修し、認定子ども園などを視察した。カンボジアへの幼児教育支援はシャンティ国際ボランティア会（SV

A）などと協力して2016年にスタートしており、厚生会が訪日研修を受け入れるのは今回で4回目になる。

12月15日、認定子ども園「子育てセンターしばもと」（浜松市の5歳児クラスは4グループに分かれ、廢材を使った電車の工作に取り組んだ。子どもたちはグループ内で相談して色や飾りつけを決

め、試行錯誤しながら電車を完成させた。子どもたちの活動をオンラインで視察したカンボジアの官僚らは、現場の保育教諭が、子どもが主体となって活動できるように支援している様子に驚き、「カンボジアだったから、先生が指導してすべてのグループで全く同じ電車が出来る上がると思う」と泣いている

「子どもの意見もくみ入れ、意見が食い違っても子ども同士で話し合っている。その過程が大切だ」といった声が上がった。

市川傑